

二〇二五年二月一六日

曇天へ千手を翳す大枯木	えいじ
山家みな長者の構へ能勢時雨	うつぎ
降りやまぬ色葉の杜に地藏堂	康子
鴨遠く鳴きて昆陽池ただ広し	もところ
紅葉影抱擁したる一碑かな	康子
寺苑統べ黄落やまぬ大公孫樹	澄子
どんぐりの散らばっている弾葉庫	やよい
拾ひたる吾が手に余る朴落葉	むべ
百幹の竹も鎮もる寺の秋	澄子
四国見ゆ紀淡海峡小春風	やよい
あたたかや子の手を杖に磴下る	たか子
山号を読みて紅葉の門くぐる	むべ
小春日のシャワーをなせる竹の径	康子
秋草に囲まれ秘そと牛魂碑	うつぎ
辰鼓楼裳裾を飾る照紅葉	わかば
城壘にアートをなせる蔦紅葉	ぼんこ
時世句碑古りてかつ散る紅葉かな	なつき

定例WEB句会みのる選

二〇二五年二月一六日